

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2015年8月30日発行 第70号

バンコク在住の西川会長から

みなさんもお存じのとおり、8月17日にバンコクで爆発事件がありました。しばらく平穏な日々が続いていたタイにまたこんな痛ましい事件が起こるとは、残念でなりません。

私はその頃、現場から直線距離にして2キロ弱のところにある職場でいつもと同じように働いていたのですが、その日はやけに救急車やパトカーのサイレンが響き渡っていたので、どこかで火事でも起きたのではないかと思っていました。

そのうち、学生たちが騒ぎ出し、爆発だということがわかり、その後は瞬く間にネットに事故現場のおぞましい画像が出回りました。

今までのデモでも小規模な爆弾騒ぎがあつたりはしましたが、標的が明確でそういうところに足を踏み込みさえしなければ安全だという一種の安心感がありました。ただ、今回はだれが標的かわからないこと、また翌日は官公庁や銀行、学校は閉鎖、爆破される恐れのある危険な地点がさらに10か所あるというまことしやかなデマが一瞬に広まったことなどから、もしかしたら、社会全体がパニックになるのではという嫌な予感がしました。

しかし、バンコクの人々は意外なほど冷静でした。その日のうちに、上記の噂はデマであることが発表され、翌日はほとんどの学校、企業で、通常通りの業務、授業が行われました。痛ましい事件ではありますが、この事件が誰かによって社会に混乱を引き起こしたり、タイの観光業、経済に打撃を与えることを目的として行われたものなら、尚さら私たちはそれに狼狽えることなく、粛々と毎日の生活を送っていきたいものです。

オーストラリアのアボット首相は爆発事件のあと、「多くの国がタイへの渡航自粛をしている中、今こそタイを訪れるのに何の障害もない」とスピーチし、それに対し、タイの観光スポーツ大臣が謝辞を述べています。

私もいつものようにここバンコクで暮らしていきたいと思ひますし、多くの方にバンコクを訪れてもらいたいと願っています。

西川 弘達

奨学金

～2015 年度奨学金授与式報告～

報告：坂 茂樹

7月21日から25日まで、奨学金授与式のためタイ東北地方5県を回ってきました。今回、授与式を行った県は、ロイエット・マハサラカム・カラシン・ムクダハーン・ナコンパノムで、タイ東北地方でもラオス国境に近い5県です。

21日の夜、バンコクから国内線でロイエット空港へ到着し、そのまま街中のホテルで1泊。22日の朝、教育委員会の担当者の迎えの車に乗り込み、授与式会場へ向かいました。この時期は教育委員会の会議が多くあり、



今回の授与式は教育委員会近くの中学校で行うことになってい

ました。学校の会議室に到着すると、もう数人の奨学生がすでに待機していました。授与式開始予定時間の1時間以上前です。キャンの奨学金への期待の表れでしょうか。この県では奨学生11名に奨学金を手渡しました。みんな緊張の面持ちでしたが、授与式が終わるころには緊張も解けたのでしょうか、あくびをする子もちらほらと出てきました。最後に生徒の自由発表の時間を作り、

数人の子が英語のスピーチをしたり歌を歌ったりしてくれました。

ロイエットでの授与式を午前中で終了し、午後は車で1時間ほどの距離のマハサラカムへ移動しました。

この県では14名の奨学生に奨学金を手渡しました。授与式には教育長も出席され子供たちに激励のスピーチをしてくださいました。授与式後は、教育委員会のワゴン車でカラシン県へ移動しました。

翌朝、ホテルからカラシン教育委員会へ移動し、授与式を行いました。ここでは12名の奨学生が出席しました。ここでは、男の子がタイの民族楽器の演奏を披露してくれました。タイでは積極的に自分をアピールできるようになることを教育の課題としているようで、スピーチや一芸など多くの生徒がとても上手に発表してくれました。カラシンの次はムクダハーンへ移動です。



午後3時ごろにムクダハーンのホテルに到着したので、1997年に建設プログラムで校舎の支援をした学校を訪ねてみようと思い、ホテルでスクーターを借りて少しツーリングをして

みました。まず県の中心部から10キロほど北にあるバンドムアイ学校へ行ってみました。学校に到着した時には授業も終わっていて、校門に施錠がしてあり校内に入ることはできませんでした。ここまで来てすんなりあきらめるわけにはいかず、近くこの学校の生徒の多くが暮らしていた村があったのでそちらへ移動しました。村の中をスクーターでゆっくり走っていると、お店の軒先でしゃべっている人たちを見つけたので声をかけてみました。そこには18年前に沢山の



日本人ボランティアがドムアイ学校に来たことを覚えていてくれたおばあさんがいました。18年前に小学生だった女の人もどこからともなく現れ、その時の写真を自分の家から探し出して見せてくれたりもしました。残念ながら僕のことを覚えている人には会えませんでした。1997年当時大学生だった数人のワークキャンプ参加者の名前は憶えているようでした。次にバンドムアイ学校から北東に3キロほどのところにあるバンサイノイ学校へ行ってみました。こちらも学校はもう終わっていましたが、用務員さんが一人残っており、少し学校の様子を聞くことができました。学校の隣

の村には当時の先生が暮らしているので、ご自宅を電撃訪問してみました。もう、定年退職されていますが、ワークキャンプ当時のことをよく覚えていてくれて、昔話に花が咲きました。おまけに夕食までごちそうになり、タイの田舎の人の親切さは、18年前と何も変わっていないなと感じました。夜7時ころまで先生の家にはいましたが、辺りが暗くなりスコールも降りそうだったので、慌ててホテルに戻りました。途中でタイのムクダハーンとラオスのサバナケットを結ぶ国際友好橋がありました。もちろん18年前にはありませんでしたが、橋はきれいにライトアップされ、地元の人々の夕涼みスポットになっているようで、とても賑やかでした。ホテルに夜8時前に帰ってきましたが、部屋に入った2分後に激しいスコールが降り始めました。

翌朝、ホテル近くの教育委員会で奨学金授与式が行われました。ここでも、教育委員会の大きな会議と日程が重なってしまい、担当の職員は大忙しの様でした。授与式では副教育長が挨拶をしてくださいましたが、挨拶が終わると次の会議のためにすぐに退席されました。ムクダハーン県で奨学金を授与した学生は13名でした。午前中に授与式を終え、次の目的地であるナコンパノムへ移動します。途中、昨日の夕方に訪問し



ようとしたドンムアイ学校（1997年ビルディングプログラムで校舎を支援）にもう一度立ち寄ってみました。お昼前の時間帯だったので、今度は授業中でしたが、僕たちが校内に入っていくと、すぐに校長先生が出迎えてくれました。あいにく1997年当時の校長は退職していて、新しい校長先生に代わっていましたが、ワークキャンプ当時から務めている先生が一人だけ在職されていたため、すぐに僕のことを思い出してくれました。この先生は、18年前と全く変わらない様子でとてもお元気そうでした。ワークキャンプで建設した校舎も、低学年の教室としてちゃんと使用されており、当時のことを覚えている生徒はみんな大人になってしまい、もう誰もいませんが、僕たちが建てた教室で延べ500名以上の子どもたちが勉強したんだなと思うと、ちょっと感動的でした。

お昼過ぎにナコンパノムに到着し、午後の奨学金授与式を行いました。ナコンパノムで奨学金を授与した生徒は11名です。ナコンパノム県はメコン河沿いにある県で対岸はラオスのターケークです。今のメコン河は水量も豊富でとてもゆっくり優雅に流れています。この街には、数年前に国境をつなぐ大きな友好橋ができ、ラオス人やベトナム人の往来が激しく、まさにこれから経済発展していきだろうと予想される雰囲気がありました。地図を確認すると、ここからベトナムまではラオスを横断してもほんの少しの距離で、バンコクよりも近いくらいです。中国からタイへ、タイから中国へ、日本からタイへ、タイから日本への陸上物流の拠点になっていることがよくわかります。海上輸送でベトナム・カンボジアなどを迂回するルートより大幅に距離が短く、とても効率的な物流が実現できます。「急速な経済発展により5年後には今と全く違う街になっているのかなあ？」とってしまいました。



本年度より、授与式の効率化を図るため授与式を実施する県を5県に絞り、残りの県は奨学生の銀行口座へ奨学金を直接送金することで対応しました。本来なら奨学金を直接手渡すことが奨学生にとっても大切なことですが、奨学金への寄付の減少により1県で奨学生が数人という所が増え、そのために授与式を行うと寄付より経費のほうが多くなってしまったという現象が起きてしまい、やむなく、送金で対応することになりました。送金で対応することになった県は、これから新規奨学生の募集をやめ、その代わりに、上記5県で新規奨学生を募集します。そして、数年後には5県以外の県の送金対応の奨学生が卒業して0名になり、授与式を行う5県の奨学生だけが残り、キャンの方針である直接支援を実現したいと考えています。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

建設

～2015年ワークキャンプ報告～

報告：坂 茂樹

7月26日から8月5日まで、タイ東部サッケーオ県カオティン村のバンカオティン学校で図書館建設のワークキャンプを実施しました。今回は日本人ボランティア9名。タイ人2名の計11名での実施です。初の試みとして小学校1年生と3年生の女の子がお婆様と一緒に参加され、初めはどうなることかと思いましたが、やはり子どもたちはたくましく、キャンプ初日からタイの子どもたちと馴染み、一緒になって追いかけてくれています。また、初めてイスラム教徒のタイ人女子大生と一緒に参加し、宗教上、食事などの制限がいろいろありましたが、何とか頑張って10日間を過ごしました。日本人にもイスラム教の彼女にとっても、とても貴重な体験になったと思います。



7月26日（日）、バンコクスワンナプーム空港で、日本から到着する参加者を出迎えました。名古屋から JAL で来る人、タイ航空で来る人、成田からタイ航空で来る人、と今回の参加者はばらばらの飛行機で到着するので、計4時間近く空港で待機です。茨城から参加の海老沢さんと合流したころにはもう午後4時を回っていました。その後、ムさんとイスラム教徒の女子大生のナーちゃん（Nai Chan）が合流し、全員がそろったところで、今回滞在するサッケーオ県のバンカオティン学校の校長先生へ電話しました。校長先生もお昼過ぎには空港に到着しどこか別の場所に待機していただけたようです。あとから聞くと、校長先生たちは4階の出発ロビーにいたそうですが、到着ロビーは2階ですから、大きな間違いをしていたようでした。校長先生がチャーターしたワゴン車に参加者全員と学校の先生のピックアップに荷物を積み込み、一路サッケーオへ出発です。約4時間の道のりです。途中、夕食を食べるために道路沿いのレストランに寄りましたが、それ以外は休憩もそこそこに一気に学校まで走りました。学校到着は夜9時ころでした。この日は、そのまま各自の宿泊する部屋に分かれて、すぐに就寝です。日本時間はもう午前0時ころです。



7月27日（月）、朝4時、時差ボケの影響で辺りがまだ真っ暗なのに目が覚めます。鶏もまだ起きていません。三重から参加の久保さんや茨城の海老沢さんは、例年通り、村への早朝探索に出かけます。村には各家に番犬がいて、二人が歩く道をトレスするように吠えています。鳴き声がかんたん遠くなるので、二人はかなり遠くまで散歩に出かけているようです。5時半ころは空が明るくなり始め、6時過ぎにはもう学校へやってくる子どもがちらほらと現れます。朝礼は8時からですが、その前に掃除の時間があり、7時半には全員が登校しているようでした。朝食のおかゆを7時に食べ、ワークキャンプ参加者も学校の朝礼に参加しました。初日の午前中は買い出しなど身の回りの環境作りに充てようと思っ



ていましたが、PTAのボランティアが建設作業を朝から手伝いに来るということで、日本人もさっそく建設作業に取り掛かることになりました。9時から作業開始でしたが、日本からの参加者はリピーターばかりなので、もう慣れたものです。すぐに作業着に着替え、タイ人の職人さんたちもびっくりするぐらいテキパキと作業を進めます。夕方までセメント捏ねの作業が続きましたが、年配の参加者の皆さんは、無理をせず各自休憩を取りながら上手に根気よく作業を進めます。若者が多いキャンプだと、頑張りすぎて初日でダウンする人が続出しますが、経験者の多いキャンプは、そのあたりのコントロールが必要なく安心です。

7月28日（火）、今日も1日中セメント捏ねで終わりました。図書館の床のセメント張りはほぼ終了し、エントランスのセメント張りに作業が移ります。イスラム教徒のナーちゃんは保健衛生の勉強をしているので、小学校3年生の教室

に入って「手洗い」の指導をしました。学校にはイスラム教の生徒がないので、子どもたちはボールをかぶったナーちゃんの姿に興味深々で、ナーちゃんはすぐに人気者になっていました。日本人ボランティアも一部作業を抜け出し、持ち寄った日本の写真を使って子どもたちに日本の紹介をしました。家の様子、街の様子、生活の様子などの写真をスライドで紹介し、タイとは違う風景に子どもたちの目が釘付けでした。

7月29日（水）、今日は、子どもたちと村の中を練り歩く仏教行事があります。高学年の子が先頭を歩き、その後ろを化粧して着飾った低学年の子どもたちがピックアップの荷台にのってついて行きます。村の中の道路をくまなく回り、1軒1軒、寄付を集めながら練り歩きます。車に積んだ大きなスピーカーから大音量の音楽もかかっているので、進むにつれて村人も列に加わり、ダンスしながら一緒に練り歩きます。お昼前になって一度学校へ戻り、昼食を食べてから、今度は山のふもとにある別のお寺へお参りに行きました。学校へ戻るとスコールが降り始め、夕方は、学校でのんびりまったり過ごしました。タイでは干ばつが続いていて、久しぶりの雨にみんな大喜びのようでした。



7月30日（木）、今日から日曜日までタイは仏教のお祭りで4連休です。学校は休みですが、何もすることがないので建設作業を少しすることにしました。相変わらずエントランスのセメント張りです。夕方、暗くなってからお寺へ行き、お参りをしてから火の灯った蠟燭と線香をもってお寺の周りを3回回るといふ儀式も行いました。それぞれの儀式の意味は分かりませんが、厳かな感じの感動的な儀式でした。

7月31日（金）、今日も仏教の行事が続きます。朝からお寺に行きお参りをし、そこで朝食もいただきました。そのあと、校長先生の計らいで、カンボジア観光が実現しました。学校の東1キロくらいのところにタイとカンボジアの小さな国境があります。本来ならタイ人とカンボジア人しか国境を通ることができませんが、タイ軍とカンボジア軍の協力のもと、特別に日本人も通らせてもらう許可が下りました。校長先生がいろいろと掛け合ってくれたおかげで実現したオプショナルツアーです。

8月1日（土）、連休があったので、土曜日ですが建設作業を行うことになりました。午前中、ムさんは日本からはるばるサッカーオ県まで一人でやってくるワークキャンプ部分参加の伊東さんを迎えにアランヤプラテートまで行きます。ナーちゃんも同行し、アランにあるイスラム料理レストランでお昼ご飯を食べてくるそうです。イスラム教徒のナーちゃんは豚肉が食べられません。豚肉を料理したことのある鍋やフライパン、食器なども穢れているとして、使用できません。そのため、ナーちゃんだけはほかの参加者と同じ食事がとれず、学校から2キロほど離れた街にあるセブンイレブンへハラル認定のある食料を買いに行っていました。といっても、パンやインスタントラーメンなどしかなく、この5日間ほど、まともな食事が食べられていませんでした。ですので、今日はイスラム料理をお腹一杯食べてくるそうです。出発するときナーちゃんはとても嬉しそうでした。学校に残った参加者は、今日もひたすらエントランスの床の鉄筋の針金縛りとセメント捏ねです。最近ようやく待ちに待った雨が降り始めたので、PTAのボランティアは畑仕事に追われ、建設作業を手伝う人の数が減ってしまいました。午後にはムさんたちも帰ってきたので一緒に建設作業をします。部分参加の伊東さんは朝4時前にバンコクに到着し、空港で軽く仮眠して、そのまま朝8時のバスでサッカーオまでやってきましたが、学校に到着してすぐに建設作業を手伝わされていました。部分参加のため建設作業を手伝える日があまりないため仕方ありません。



作業をしていると突然の訪問客が現れました。2002年に図書館建設ワークキャンプを行ったバンサイトン学校の元校長先生が、差し入れのフルーツをもって来てくれ、おまけに「夕食をごちそうしたいから、皆で焼き肉を食べに行こう」と誘ってくれました。夕方、元校長の運転するトラックの荷台に日本人、ムさん、ナーちゃん、学校の先生、給食のおば

さんなど 20 名以上が乗り込み、20 キロほど離れた街にある焼き肉ビュッフェへ行きました。もちろんナーちゃんはお肉を食べられないので、少し離れた席でお昼のイスラム料理店からテイクアウトしたお弁当を食べていました。

8 月 2 日（日）、朝、村に住んでいる学校の先生のお宅を訪問し、そこで「クイチャップ」の朝食をいただきました。クイチャップとは麺の一種で、5 センチ四方のシート状になった面が、くるくると丸まった状態でスープの中に入った食べ物です。この先生の奥様が、近くの国境市場で屋台を出しているのので、出勤前に自宅でごちそうしてもらいました。朝食のあと、降っていた雨が上がったので、そのまま、学校の用務員さんのピックアップで国境市場へ行きました。31 日にカンボジアへ行った時には素通りしてしまったので、今回は自由散策の時間を設け、各自買い物などをして過ごしました。今日は日曜なので建設作業も休みにして、お昼からは学校で自由に過ごしました。

8 月 3 日（月）、「よしふみ文庫」（詳しくは図書支援の報告）の贈呈式で、一部の日本人が出かけてしまったので、少人数で建設作業を手伝います。また、同時に高学年の生徒に習字の授業も行いました。伊東さんの指導のもと、体育館に生徒を集め、床に新聞紙を敷いて、5、6 人の輪になって好きなお手本を選んで習字を書きました。なぜか、生徒たちには「左右」というお手本が人気でしたが、若い女の先生は「美人」という字を真剣に書いていました。午後になってからもしっかり働き図書館前エントランスのセメント張り作業が完了したので、3 時前には建設作業終了となりました。

8 月 4 日（火）、建設作業もきりがついたので、今日 1 日は凧作り大会を行いました。日本人が 2、3 人ずつ、各クラスに分かれて、植田さんの用意してくださった凧作りキットを使って、凧つくりを教えました。そして、各自で作った凧に昨日習った習字で好きな文字や模様を描き、乾いたら糸をつけて校庭で凧を飛ばしました。初めのうちは上手に飛ばなくて、子どもたちなりに工夫をして、尻尾を伸ばしてみたり重心をずらしてバランスを変えてみたりしながら、何とか空に上がる凧を作り上げました。最後には渡した 20 メートルの道糸が足りなくなるくらい高く上がる凧も出始めました。



今夜は学校での最後の夕食なのでさよならパーティーが開かれました。体育館を会場にしてケータリングを頼み、村人も誘っての大宴会となりました。子どもたちもダンスなどの出し物を披露してくれました。

8 月 5 日（水）、バンコクへ戻る日です。朝礼で子どもたちにお別れを言い、建設途中の図書館の前に全員集まり写真を撮りました。校長先生が用意してくれたチャーターワゴンに乗り込み朝 9 時前に学校を出ました。途中、2008 年に幼稚園校舎建設を行ったバンクロンタンマチャート学校に寄り、校舎の使用状況を調

査してきました。幼稚園らしくピンク色に塗られた建物はとてもきれいに使用されていました。その後、道路沿いのレストランで昼食を食べたのと給油以外は寄り道もせずバンコクを目指しました。お昼の 2 時頃にはバンコク市内に入ったのですが、ホテルまでの残り 1 キロで大渋滞に巻き込まれ、抜け出すまでに 1 時間近くの時間を要しました。今夜の宿は、シーナカリンウィロート大学の中にあるゲストハウスで、バス、トイレは共同のシンプルな宿泊施設ですが、とても交通の便がよく、しかも格安です。チェックインのあと、西川会長を囲んでの夕食会となりました。その後、今夜の便で帰国する植田さんと海老沢さんを空港まで送り届けました。翌朝、お昼前のタイ航空で名古屋へ帰るといふ大矢さんと久保さんをホテルの前で見送り、これで今回のワークキャンプはすべて無事に終了しました。



が…、二人が搭乗する飛行機の出発が機材故障で 6 時間も遅れ、中部国際空港に着いたのは深夜になったそうです。大変お疲れさまでした。

図書支援

～よしふみ文庫の贈呈～

報告・大矢治夫

キャンヘルプタイランドの図書支援プログラムは昨年11月に亡くなった伊藤剛史さんを顕彰して「よしふみ文庫」を発足させました。文庫の資金を25万円と計画し、広く会員の皆様やドナーの皆様へ資金提供を呼びかけました。今年6月、文庫の資金がほぼ目標額に到達しましたので、文庫の寄贈学校を検討したところサツケーオ県の「バンサイトン学校」と「バンノンサメット学校」の2校に学校図書の寄贈が決まりました。この学校に文庫の寄贈が決まった理由は次の2つでした。一つは今年ワークキャンプを実施するサツケーオ県内の学校が望ましいことです。文庫の贈呈には購入図書を直接子供たちに手渡したいこと。「よしふみ文庫」として大切に使うことを直接伝えたいからです。その為には今年の夏のワークキャンプ期間中に訪問できる事が大切と考えました。二つ目は伊藤さんを始め、過去にワークキャンプを実施した学校が相応しい、との理由です。これ等の理由から2校への寄贈が決定されました。図書は今年と来年と2回に分けてお送りします。又本棚1セットも今年中にお送りする事が決まりました。

8月4日の9時ごろ、今年のワークキャンプ滞在学校、バンカオディン学校長の案内で学校から南西へ車で約40分の「バンサイトン学校」へ出発しました。同行の坂さん・海老沢さん・立山さんは2002年のワークキャンプに参加されたことで訪問をとっても楽しみな様子でした。村落に入って角を曲がると、みどり滴る森に囲まれた学校が現れました。先生方に案内されて13年前に建設された図書館へ案内されました。校舎から離れた別棟のこじんまりとした建物は明るく、気軽に楽しめる雰囲気でした。13年前のキャンプでお世話になった先生も何人かいらして、話が弾みます。ここで新刊の図書贈呈と「よしふみ文庫」の来期の活動を説明すると、先生たちの笑顔が広がります。式を終えて他の教室を覗いたり、タイではどこでも見られる芝生のグラウンドに出て皆13年前を思い起こしています。再会を約束して学校を後にしました。

続いてこの学校から程近くに有る、「バンライサムシー学校」を訪問しました。

今から13年前の夏、2002年度のワークキャンプはここサツケーオ県で3箇所同時に実施したのです。私、大矢がワークキャンプに参加した学校がバンライサムシー学校でした。完成した校舎を見るのは今が初めてです。訪問のアポも取らずに直接お邪魔したわけです。同行の校長先生の説明で突然の訪問の理由がわ



かり、快く構内を案内くださいました。この学校はキャンを以前より支援下さっている、名古屋千種ロータリークラブの20周年記念事業として、キャンと共同で建設した教室でした。寺院を想わせる大屋根の反りが入った校舎です。私達ワークキャンプでは屋根を支える太い柱の建設で帰国しました。完成した写真は見ていましたが、実際に間近で見ると高屋根の優雅なたたずまいにうっとりします。13年の歳月は周りの植え込みやグラウンド脇の木立のみどり美しく、思わず「スウィ」とタイ語で先生に言うと満足げに頷きました。同行の校長も「この学校はすばらしい」と先生方に話しかけていました。教室の前で子供達と記念写真を撮って、名残惜しく学校を後にしました。

一度バンカオディン学校に戻って午後から「バンノンサメット学校」の



贈呈式に臨みました午後の訪問は「バンカオディン学校長の車に乗っての訪問です。私達の滞在学校から北東へ車で約



1 時間 20 分程あります。校長先生は毎日この近くから 50km 程通勤されていると聞きました。同行の植田さん、伊東さんは、「よしふみ文庫」の亡・伊藤さんと 13 年前にワークキャンプで汗を流した思い出の学校でした。午後 2 時 30 分頃学校に到着して、先生に案内され、大きな建物の、1 階のゲストルームに案内されました。この校舎は鉄筋コンクリート造りの 2 階建、6 教室も有るたいそう立派な建物でした。植田さん、伊東さんにとっては初めて完成した建物を見ることでした。

想像以上に立派な建物に感激の様子です。生徒の代表も呼んで新刊の図書を贈呈しました。「ここで改めて「よしふみ文庫」の由来や今後の取り組みを説明して、皆の笑顔が広がります。同行の植田さんの提案で、日本から持参したロケット風船を皆で膨らまして、グラウンドから一斉に飛ばして、天国の「よしふみさん」にお礼をしよう、と提案がありました。5・6年生全員がみどりの校庭に集まると、皆が風船をおもいおもいに膨らまします。そして植田さんが掛け声をかけました。「ヌング、ソーン、サーム、GOー」子供たちの歓声が空に流れて行きました。



運営委員会

(2015 年 5 月～8 月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5 月	事務局	NPO 設立準備
運営委員会	6 月	事務局	奨学金授与式準備、NPO 設立申請準備
運営委員会	7 月	事務所	NPO 設立申請、ワークキャンプ準備
運営委員会	8 月	事務所	奨学金アサイン、翻訳会

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

ネットワーク通信もついに 70 号まで来てしまいました。年 4 回の発行で 70 号ということは 17 年ということです。ここまで来たら 100 号は目指したいと思います。あと 8 年といったところでしょうか。キャンヘルプタイランドは皆様からの寄付金で運営されています。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.70>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2015 年 8 月 30 日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中原区名駅南 2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の 13~16 時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>